



## 市・有形民俗文化財

### ぎょ ぐ 漁 具 | 魚津市小川寺（魚津市）

魚津市は、その名のとおり、漁業と人びとが深いかかわりをもっている地域でもある。富山湾に面し、富山湾及び日本海を主な漁場として行われてきた漁撈は、この地域の人びとの生活を古くから支えてきた。

漁業は、沿岸・沖合い・遠洋の3種に分れており、古くは零細な沿岸漁業が中心であった。明治以降から昭和にかけて沖合い・遠洋漁業が盛んになり、北洋サケマス漁業など、遠洋漁業は昭和中期をピークとして魚津の漁業を支えたが、その後、衰退してきている。現在では、定置網漁などの沿岸漁業を中心に、イカ釣り、バイカゴなどの沖合い漁業が行われており、それぞれ近代的な漁具が用いられている。

市指定文化財とされている漁具は、いずれも明治時代から昭和30年代までに沿岸漁業に用いられていたもので、定置網に用いられた罌・浮子・タモ網・ドウブネと呼ばれる小形木造船の櫂や、漁網を染めた柿渋用具などがある。現在、魚津歴史民俗博物館で保管、展示している。